

北海道生物多様性保全計画(生物多様性地域戦略):第2次案骨子について

1 骨子の考え方

- 2050年の自然共生社会の実現に向け、2030年までに目指す目標を設定し、そこに向かうための戦略を提示、その戦略に対応した取組を進めることを、メインフレームとしている。
- 戦略は、2050年に目指す北海道の姿からのバックキャストで設定。環境だけでなく、経済・社会も巻き込んだ統合的な向上を図る観点から、「生態系サービス(自然から得られる便益)」に焦点を当て、これを持続的に受け取るための内容としており、その取組が結果的に生物多様性の保全につながる構成となっている。
- 策定が義務付けられている計画・方針(例:鳥獣保護事業計画、北海道希少野生動植物種保護基本方針、北海道外来種対策基本方針)に含めることができる内容は、重複を避けるため戦略には示さないこととする。
- 計画の性格上、規制的な内容は実効性を伴わないことから、法や条例での対応とする。

2 次期計画の構成案

現行計画と次期計画の構成(目次)の違いは、つぎのとおり。特に下線部が新たに追加された主な項目。

現行計画	次期計画(案)
はじめに	はじめに
I 生物多様性とは	I 計画策定に当たって
II 計画策定に当たって	1 計画の位置付け
1 計画の位置付け	2 計画の期間
2 計画の期間	3 基本とする生物多様性国家戦略の概要
3 計画の特徴	4 計画見直しの背景(国内外の動き・道の取組等)
(1) 4つの圏域	5 北海道における生物多様性の現状
(2) 8つの生態系	(1) 生物多様性とは
III 生物多様性を巡る情勢	(2) 北海道の自然環境と生物多様性
1 計画策定及び見直しの背景	(3) 4つの圏域とその特徴
(1) 国の生物多様性にかかる動き	(4) 8つの生態系とその特徴
(2) 地方公共団体の動き	(5) 縄文文化・アイヌ文化と生物多様性
(3) 北海道の取組	6 生物多様性を脅かす要因と取り組むべき課題
(4) 先人の知恵と文化	II 目標
2 北海道の生物多様性における現状と課題	1 <u>2050年に目指す北海道の姿</u>
(1) 北海道の自然環境	2 <u>2030年目標</u>
(2) 各圏域における自然環境	III <u>戦略</u>
(3) 北海道の生物多様性	1 基本方針
3 北海道の生物多様性を脅かす要因	2 <u>目標達成に向けた基本戦略</u>
(1) 人間活動や開発による影響	3 計画推進の仕組み(各主体の役割・点検評価等)
(2) 人為的な持込みによる影響	IV <u>行動計画</u>
(3) 地球温暖化による影響	1 <u>基本戦略に対応した具体的取組</u>
IV 計画の基本方針	2 関連施策一覧
1 計画の目標と基本方針	(1) 生態系別施策の実施方針
2 計画の推進に際しての基本的視点	(2) 重要地域の保全施策の実施方針
3 各主体の役割と連携	(3) 横断的・基盤的施策の実施方針
4 計画の推進	関連指標等
V 施策別実施方針	関連用語解説
1 生態系別施策の実施方針	
2 重要地域の保全施策の実施方針	
3 横断的・基盤的施策の実施方針	
関連指標等	
関連用語解説	

3 次期計画の骨格

